

2012年第3四半期 連結決算概要

中外製薬株式会社
取締役専務執行役員 CFO
板谷 嘉夫

2012.10.23

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

注：本資料の数値は億円未満を四捨五入して表示
増減、%は億円単位で表示された数字で計算

2012年第3四半期 連結決算概要

■ 売上高 2,754億円 (▲0.2%)

- タミフル：通常インフルエンザの流行により3割増
- タミフルを除く国内製商品：数量ベース7%台の成長で薬価改定影響を補い微増 (+0.9%)
- 海外：為替影響とアクテムラ輸出タイミング差により減少 (▲8.7%)
- その他の営業収入：アクテムラ関連収入の増加を一時金の減少が上回り約2割減

■ 営業利益 482億円 (▲3.6%)

- 製品MIXの変化とその他の営業収入の減少に伴う売上総利益率の低下により減益

■ 四半期純利益 298億円 (+10.0%)

- 前年は災害による損失74億円を計上

損益の概要 1-9月実績

【億円】	2011年 1-9月	売上 (%)	2012年 1-9月	売上 (%)	増減	%
売上高	2,760		2,754		▲6	▲0.2
製商品売上高	2,675		2,686		+11	+0.4
タミフルを除く	2,612		2,604		▲8	▲0.3
タミフル	63		82		+19	+30.2
その他の営業収入	85		68		▲17	▲20.0
営業利益	500	18.1	482	17.5	▲18	▲3.6
営業外収益	33		12		▲21	▲63.6
営業外費用	22		14		▲8	▲36.4
経常利益	511	18.5	481	17.5	▲30	▲5.9
特別利益	0		0		+0	-
特別損失	91		0		▲91	▲100.0
当期純利益	271	9.8	298	10.8	+27	+10.0

- 製商品売上高(タミフルを除く)
 - 国内 +21億円
 - 海外 ▲29億円
- タミフル* +19億円
- その他の営業収入 ▲17億円
 - 一時金収入の減少
- 営業利益 ▲18億円
- 営業外収支の悪化 ▲12億円
- 特別損益の改善 + 91億円
 - 災害による損失 + 74億円
 - 資産除去債務影響 + 10億円

期中平均レート(円)

	2011年1-9月	2012年1-9月
CHF	91.62	84.43
EUR	113.25	101.69

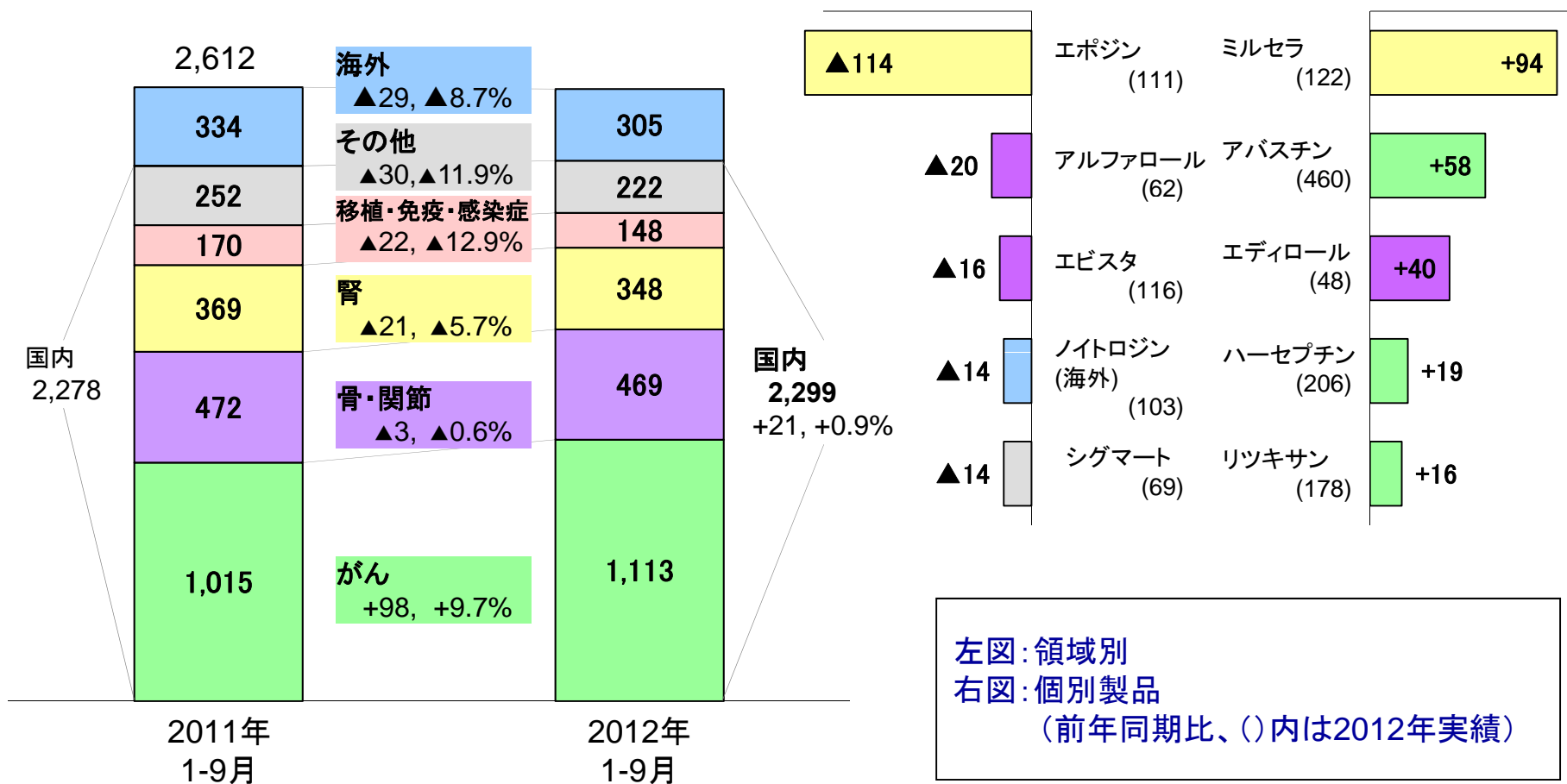
* タミフル 内訳

	2011年1-9月	2012年1-9月	増減
通常	41億円	79億円	+38億円
行政備蓄等	22億円	4億円	▲18億円

製商品売上高（タミフルを除く）の増減内訳 1-9月実績

【億円】

製商品売上高（タミフルを除く）
2,604億円（▲8, ▲0.3%）



タミフルの売上状況

【億円】		決算期売上														シーズン 売上	定点観測数* (百万人)		
		2005年12月期		2006年12月期		2007年12月期		2008年12月期		2009年12月期		2010年12月期		2011年12月期				2012年12月期	
		1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月			1-6月	7-12月
通常	2004-05	232																246	1.47
	2005-06		119	99														218	0.92
	2006-07				37	50												87	1.01
	2007-08					52	14											66	0.66
	2008-09							57	110									167	1.27
	2009-10									252	14							266	2.02
	2010-11											2	41					43	1.26
	2011-12													13	78			91	1.63
	2012-13															15		-	-
通常		351 (+265)		136 (▲215)		102 (▲34)		71 (▲31)		362 (+291)		16 (▲346)		54 (+38)		93 (+39)			

行政 備蓄等	2005-06		2	65														67	
	2006-07				179	189												368	
	2007-08					96	2											98	
	2008-09							11	144									155	
	2009-10									256	106							362	
	2010-11											59	5					64	
	2011-12													28	4			32	
	2012-13															0			
行政備蓄等		2 (+2)		244 (+242)		285 (+41)		13 (▲272)		400 (+387)		166 (▲234)		33 (▲133)		4 (▲29)			

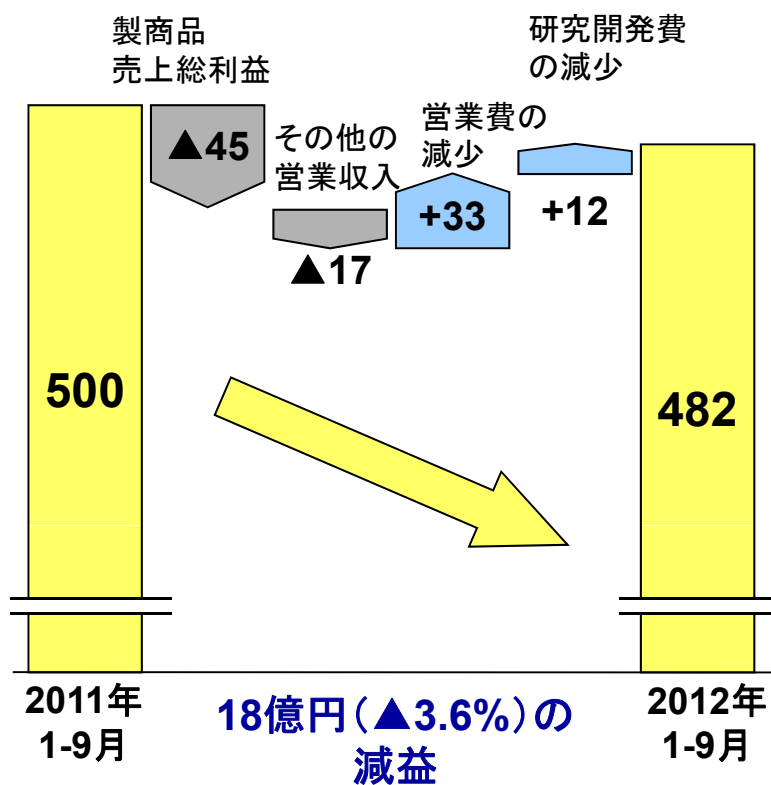
合計	232	120	163	216	238	148	16	68	254	508	120	61	46	41	81	15		
	352 (+266)		380 (+28)		387 (+7)		84 (▲303)		762 (+678)		182 (▲580)		87 (▲95)		97 (+10)			

黄色の網掛けは予想値、()内は前期比

* 国立感染症研究所「感染症発生動向調査」10月下旬から4月中旬(2009-10シーズンは2009年7月初旬から2010年3月中旬)の合計患者数

営業利益の増減内訳 1-9月実績

【億円】



【億円】	2011年 1-9月	2012年 1-9月	増減	(%)
売上高	2,760	2,754	▲6	▲0.2
売上原価	1,154	1,210	+56	+4.9
売上総利益	1,607	1,544	▲63	▲3.9
うち 製商品	1,521	1,476	▲45	▲3.0
うち その他の営業収入	85	68	▲17	▲20.0
営業費	694	661	▲33	▲4.8
研究開発費	412	400	▲12	▲2.9
営業利益	500	482	▲18	▲3.6

- 製商品売上総利益の減少 ▲45億円
- その他の営業収入の減少 ▲17億円
一時金収入の減少
- 営業費の減少 +33億円
コストの効率的運用
- 研究開発費の減少 +12億円
後期開発プロジェクトの一巡

損益の概要 7-9月（第3四半期）実績

【億円】	2011年 7-9月	売上 (%)	2012年 7-9月	売上 (%)	増減	%
売上高	941		901		▲40	▲4.3
製商品売上高	927		886		▲41	▲4.4
タミフルを除く	910		885		▲25	▲2.7
タミフル	17		1		▲16	▲94.1
その他の営業収入	14		15		+1	+7.1
売上原価	408		393		▲15	▲3.7
売上総利益	533	56.6	508	56.4	▲25	▲4.7
営業費	241		231		▲10	▲4.1
研究開発費	143		138		▲5	▲3.5
営業利益	148	15.7	139	15.4	▲9	▲6.1
営業外収益	21		6		▲15	▲71.4
営業外費用	20		8		▲12	▲60.0
経常利益	149	15.8	137	15.2	▲12	▲8.1
特別利益	0		-		+0	-
特別損失	15		0		▲15	▲100.0
当期（四半期）純利益	100	10.6	90	10.0	▲10	▲10.0

●製商品売上高（タミフルを除く）

▲25億円

アバスチン +26億円

ハーセプチン +23億円

エディロール +21億円

ミルセラ +18億円

アクテムラ（海外）▲49億円

エポジン ▲26億円

アルファロール ▲10億円

●タミフル* ▲16億円

●その他の営業収入 +1億円

●営業利益 ▲9億円

* タミフル 内訳

	2011年7-9月	2012年7-9月	増減
通常	0億円	1億円	+1億円
行政備蓄等	17億円	-	▲17億円

損益の概要 1-9月実績

【億円】	実績	2月1日公表予想	
	2012年 1-9月	2012年 1-12月	進捗率 (%)
売上高	2,754	4,185	65.8
製商品売上高	2,686	4,037	66.5
タミフルを除く	2,604	3,941	66.1
タミフル	82	96	85.4
その他の営業収入	68	148	45.9
営業利益	482	800	60.3
経常利益	481	805	59.8
当期純利益	298	490	60.8

【億円】	実績	期初公表予想	
	2012年 1-9月	2012年 通期	進捗率 (%)
タミフルを除く製商品売上高	2,604	3,941	66.1
がん領域	1,113	1,654	67.3
アバステン	460	688	66.9
ハーセプチン	206	273	75.5
リツキサン	178	253	70.4
ゼローダ	79	168	47.0
タルセバ	69	82	84.1
骨・関節領域	469	703	66.7
アクテムラ	121	183	66.1
エビスタ	116	169	68.6
スベニール	90	147	61.2
エディロール	48	78	61.5
腎領域	348	627	55.5
ミルセラ	122	296	41.2
エポジン	111	168	66.1
移植・免疫・感染症領域	148	256	57.8
ペガシス	51	121	42.1
コペガス	15	27	55.6
その他領域	222	300	74.0
海外製品売上	305	402	75.9
アクテムラ	182	241	75.5
ノイトロジン	103	131	78.6

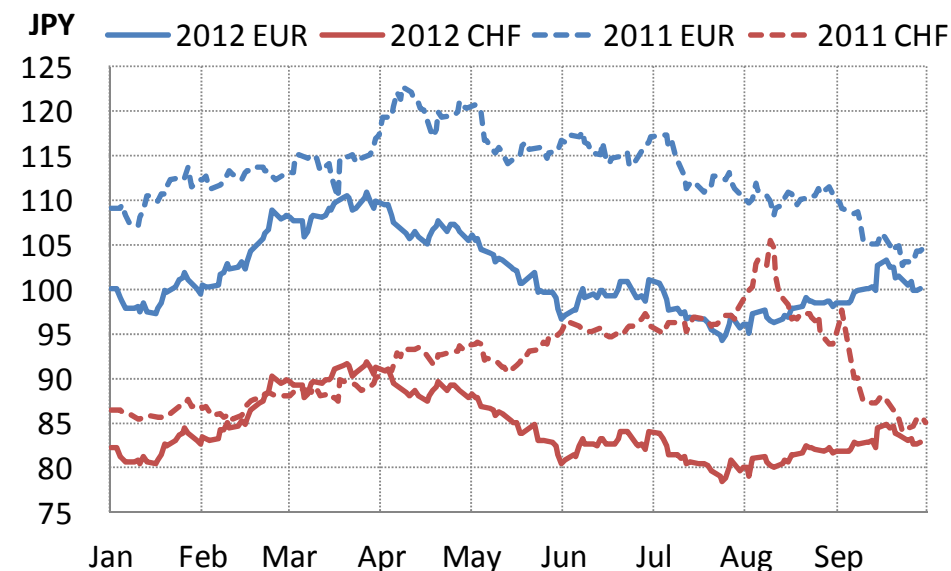
為替変動の影響について

	為替による影響 (想定レート対比)
売上高	▲11億円
	ノイトロジン(海外) ▲7億円
	アクテムラ(輸出) ▲1億円
	その他の営業収入等 ▲3億円
原価・販管費	ロシュ品原価 +1億円 海外販社販管費等 +4億円
営業利益	▲6億円
営業外収支	為替差損益・為替予約 ▲8億円
経常利益	▲14億円

*いずれも概算

- 期初予想 想定レート (通期)
CHF: 85.00円 EUR: 109.00円
- 1-9月実績レート(期中平均)
CHF: 84.43円 EUR: 101.69円

- (ご参考) 為替レート推移(CHF,EUR)



開発パイプラインの状況

中外製薬株式会社
R&Dポートフォリオ部長
高梨 契典

2012.10.23

開発の状況ーがん領域（１）

導入品

RG435/アバスチン

再発膠芽腫

2012年9月 申請

卵巣がん

2012年10月 申請

導入品

RG3638/onartuzumab (MetMAb)

非小細胞肺癌

年内にP3国際共同治験に参加を決定

導入品

RG3502/trastuzumab emtansine (T-DM1)

胃がん 2012年9月 P2/3国際共同治験開始

開発の状況ーがん領域（２）

導入品

RG7204/vemurafenib
悪性黒色腫（メラノーマ）
2012年9月 P1開始

自社品

WT2725/WT1ペプチドがんワクチン
進行がん 2012年8月 海外P1開始
＊大日本住友製薬との共同開発

自社品

AF802
ロシュへの導出を決定
（予定適応症：非小細胞肺癌）

開発の状況ー

骨・関節領域、自己免疫疾患、その他

自社品

アクテムラ（US）
関節リウマチ（DMARDs-IRへの適応拡大）
2012年10月 承認

導入品

RG484（経口剤）
骨粗鬆症 2012年10月 P3開始

自社品

ACE910/バイスペシフィック抗体
血友病A 2012年8月 P1開始

血友病Aについて

- 定義：血液凝固第VIII因子(FVIII)の先天的欠損または機能異常に起因する出血性疾患
- 患者数：三極における登録患者数は約3.8万人（2010年世界血友病学会調査）
- おもな症状：関節内、筋肉内、皮下、口腔内、頭蓋内、消化管、鼻腔内などでの出血
 - 繰り返しの関節出血に伴う関節症は、歩行困難など深刻なQOL低下につながる

- 標準療法：FVIII補充療法

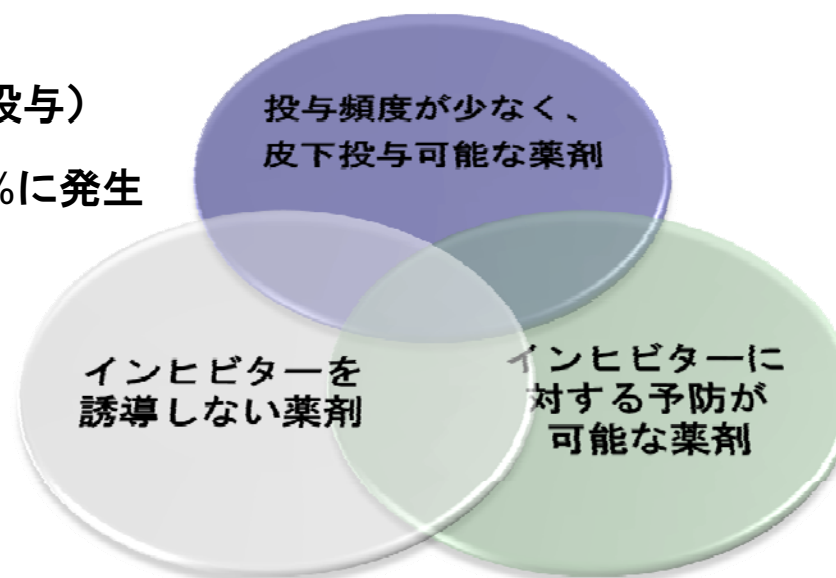
- 出血時の止血治療
 - 定期投与による出血予防（週3回の静脈内投与）

FVIIIに対する自己抗体（インヒビター）が20-30%に発生

- インヒビター保有患者に対する治療

- バイパス製剤による止血治療
 - 免疫寛容療法

血友病Aにおけるニーズ

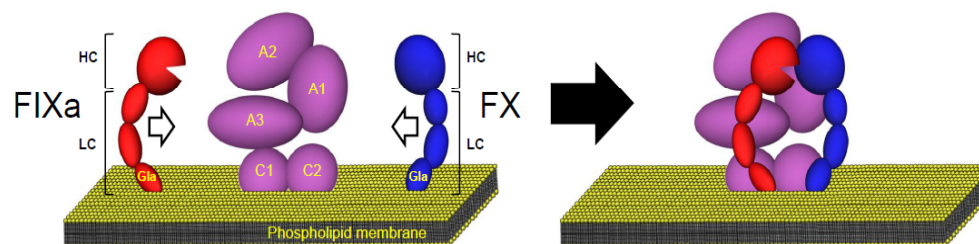


ACE910 – 作用機序

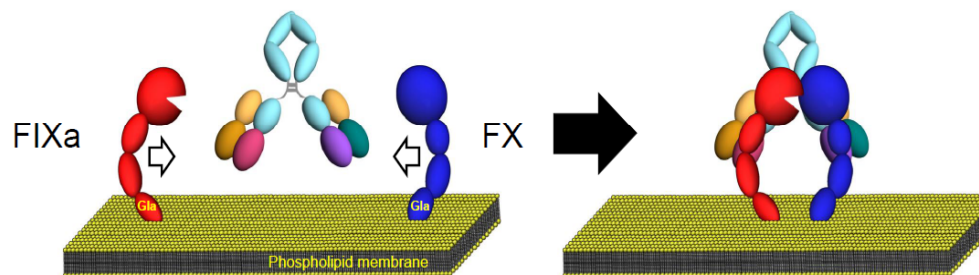
■ ACE910: ヒト化抗factor IXa x 抗factor X bispecific抗体

ACE910は、FVIIIと同様に、FIXaとFXの位置関係を保持することにより、FXの活性化を亢進し、血液凝固反応を促進する

FVIIIの作用機序



ACE910の作用機序



Nature Medicine, Published online 30 September 2012

■ 期待される特性

- 半減期が長く、皮下投与が可能
- インヒビター存在下でも有効
- インヒビターを誘導しない



インヒビター非保有患者、インヒビター保有患者において、週1回の皮下投与による出血予防の実現

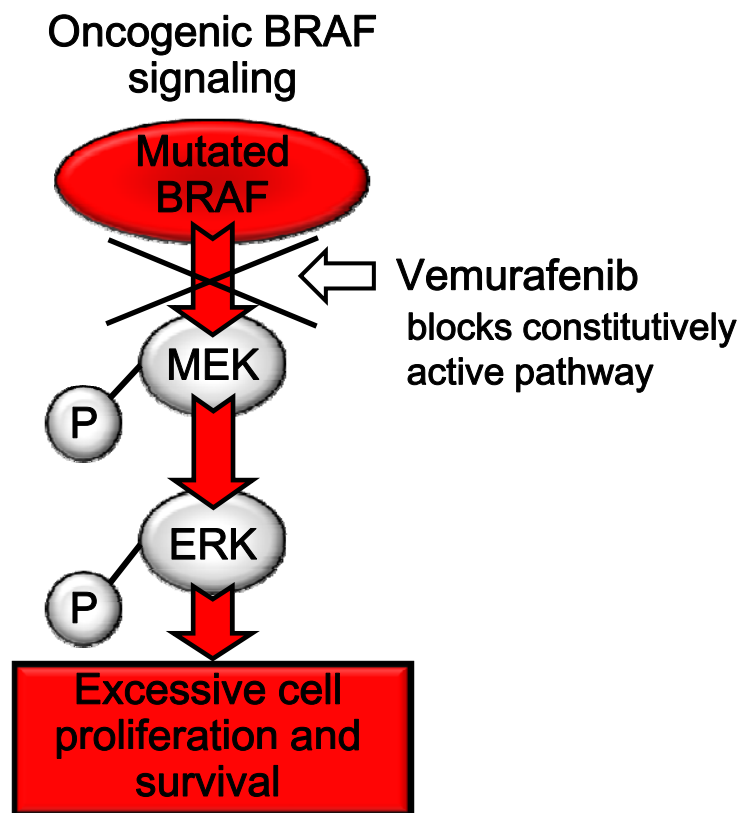
悪性黒色腫（メラノーマ）について

- 年間新規患者数：1,300-1,400人
- 世界的には毎年3-5%のペースで増加
- 切除不能な場合の予後は極めて不良
 - PFSは中央値で2ヶ月程度
 - 5年生存率は10%以下
 - 欧米では若年者のがん死亡の第一位
 - 紫外線が原因の一つ
 - 最近まで治療としては、効果も低く、副作用も強いものに限られていた（化学療法、放射線療法、免疫療法など）



Vemurafenib はBRAFキナーゼを選択的に阻害

- BRAFキナーゼの活性を阻害することにより、BRAF^{V600}変異を有する細胞に特異的に効果を示す
- コンパニオン診断薬：cobas® 4800 BRAF V600 Mutation Test



- BRAF^{V600}変異により恒常的にシグナルが活性化されることにより、過度の細胞増殖や細胞の生存が引き起こされる
- BRAF^{V600}変異は様々ながんで認められている
 - ~50%：メラノーマ
 - ~30-70%：甲状腺がん
 - ~10%：大腸がん
 - ~8 %：すべての固形がん

お問い合わせ先：広報IR部

報道関係者の皆様：広報グループ

Tel : 03-3273-0881

e-mail : pr@chugai-pharm.co.jp

担当：相川、河原、宮田、荒木

投資家の皆様：IRグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当：内田、時田、喜多村、蓑島